

六年全 一七〇 △〇・三 △四・三 △三九 二八 六六
 七年全 一九〇 三六 五三 八一 六六 六七
 八年上期 二〇三 一四〇 七四 一五一 九二 七二
 八、斯る現実的推移に対し昨年の三月テーゼは粗雑であった。例へば物價三割値上り説の如き。

二、労働組合運動の一般的推移

イ、労働争議は守勢より攻勢へと轉じた。かきれば大衆的攻勢とけなつてゐる。

ロ、此の轉折にも拘らず組織労働者、教争議件数人員数は減少した。

第三表 労働争議統計 — 社会局 — 要求項目千分比

年	争議件数	参加人員	一得平均参加員	賃銀増額	賃下交渉
昭和五年	二二八九	一九一、八〇五	八三	〇・〇八八	〇・三二一
六年	二四五六	一五四、五二八	六三	〇・一〇六	〇・二一七
七年	二、二一七	一三三、三一三	五六	〇・二二九	〇・一五六
八年	一、六三八	一〇二、六六三	六二	〇・三七〇	〇・〇五六

第四表 労働者總数、組織労働者数

年	社会局		組織率
	労働者總数	組織労働者数	
昭和五年十二月	四七一三、〇〇二	三五四、三一二	〇・〇七五
六年全	四、六七〇、二七五	三六八、九七五	〇・〇七九
七年全	四、八六〇、二七六	三七七、六二五	〇・〇七八
八年六月	四、八八一、九五七	三六八、四〇七	〇・〇七五

第五表 昭和八年中に喪失した組合員数 — 協調会、社会政策時報、九年二月号 —

組織	全国労働	官業労働總同盟
總 司 盟	五〇、〇〇〇名	三、六六七名
		六、八〇〇名

二、斯る組合運動の推移に対し、三月テーゼはその沈滞理由を平面的に羅列したのみで眞諦を把握してゐなかつた。

ホ、吾等はこの状態を生起せしめた理由を特に左記四因に求めなければならぬ。勿論国家権力と帝國主義資本家との苟合の態度を増したことを前提